

# BINAURAL RECORDING CONTEST DAM

## Side A

- 1 電話2つてバイノーラル———〈努力賞〉
- 2 あるバイノーラルの2つの実験———〈優秀賞〉
- 3 秩父の夜祭風景———〈努力賞〉
- 4 たった一人の五重奏———〈アイディア賞〉
- 5 下赤塚諏訪神社行事「田遊び」———〈努力賞〉
- 6 昭和51年と52年にまたがる300秒———〈努力賞〉
- 7 悪夢———〈アイディア賞〉

## Side B

- 1 ジュンちゃんのディスク・ジョッキー「飛行機なんてデデンデン」〈最優秀賞〉
- 2 ほのほの床屋———〈アイディア賞〉
- 3 池上本門寺御会式———〈努力賞〉
- 4 F-1爆走———〈努力賞〉
- 5 マッドマウス———〈努力賞〉
- 6 常磐炭坑節の主題によるバイノーラルの音楽———〈努力賞〉
- 7 多重録音作品「竹田の子守唄」———〈努力賞〉
- 8 イメージサウンド「白と黒の情景」———〈アイディア賞〉
- 9 夜の訪問者———〈アイディア賞〉

このレコードは必ずヘッドホーンでおきき下さい。

ごあいさつ

— 第一家庭電器(株)DAM推進委員会—

今回のDAMバイノーラル録音コンテストに全国より多数ご応募頂きました事を心よりお礼申し上げます。

昨年3月、ダミーヘッドマイクによるバイノーラル録音がオーディオ誌等で取り上げられ始めた時、私達はいち早く、DAMバイノーラルレコード VOL.1 を制作して、ユーザーの皆様がこのレコードを聞く事で、更にバイノーラル録音にチャレンジしてくれる事の願いをこめて世に送り出しました。

今回の応募作品の中には、アイディアとウイットに富み、アマチュアならではのキラリと光る作品が多数あり、そのお客様のご協力により VOL.2 の制作が出来ました事を私達一同この上ない喜びとして居ります。本来なら10作品を収録する予定でしたが、それぞれの優秀をつけ難く16作品を取める事となりました。

バイノーラル録音は誰でもどこでもアイディア次第で楽しく素晴らしい臨場感あふれる録音が出来るものです。レコード化した作品を参考にして皆様も気軽にチャレンジしては如何でしょうか。

今後とも私達は新しいアイディアの提供や楽しい催しごとなど皆様ともども楽しいオーディオライフを築いて行くつもりです。

## ●作品解説

### 最優秀賞

#### ■ ジュンちゃんのディスク・ジョッキー

「飛行機なんてデデンデン」

#### 先生講評

最優秀賞の候補にのぼった作品はまだ他にもありましたが、他の候補作品とつばぜり合いの結果、あなたの作品を最優秀賞に選出する決め手になったのは、同時に応募されたあなたの他の作品のレベルも平均してすぐれていたこと、録音テクニックの基本がしっかりしていると認められたからです。バイノーラル録音といえども、録音技術の基本をマスターすることが重要です、ある意味では、基本的な録音テクニックを身につけていなければ、バイノーラル録音の効果を面白く聴かせることは不可能です。

この作品は、3才と1才の甥の会話と、昨年10月に入間基地でおこなわれた国際航空宇宙ショーでの録音を重ね合わせて、一つのストーリーにまとめていますが、最新鋭ジェット機の飛び交う爆音を通して、大空を飛翔することが子供たちにとっていかに大きな夢であるかということを短い時間の中でうまく表現しています。

録音レベルのセットやミキシング技術などの基本的な面がしっかりしていることは前に述べましたが、子供の声を左右に走らせてバイノーラル効果を何気なく聴かせたり、子供の声とジェット機の爆音との接ぎを自然におこなっているところが高く評価できますし、最後に、周囲の人々の会話と甥の会話をオーバーラップさせて、大空にあこがれる子供の心情

右は航空宇宙ショー会場



三井啓先生

#### 航空ショー入場券



を表現しているところは、心憎いほどの構成力といえましょう。国際航空宇宙ショーの録音に子供たちがたくさん集っている場所を選んだのも成功の要因の一つですし、ジェット機の爆音のバイノーラル効果もすぐれています。

あなたは基本がしっかりしていると再三にわたって述べましたが、一つだけ欠点を挙げますと、編集個所でノイズが出ることです。ジェット機の爆音に入る前の甥の会話の部分に数ヶ所録音が入られているはずですが、そのうちの二箇所ほどからブツツというノイズが聴かれます。編集に使用した録音が帯磁していたのでしょうか。バイノーラル録音ではこうしたノイズがとくに気になるものですから、十分に気をつけて下さい。

録音：51年10月17日 編集：52年2月27日  
録音場所 航空自衛隊入間基地「航空宇宙ショー」

出演：甥、姉

録音機：ソニー TC2860SD  
(テープ マクセルDIXLI)

編集機：ティアック A7400  
(テープ TDK AUDIO)

ダミーヘッドマイク ビクター HM200

〈制作のねらい〉バイノーラル効果  
〈メモ〉苦勞した点=人の声を入れること、編集とイントロの制作。子供の声は演出、2才。

### 優秀賞

#### ■ あるバイノーラルの2つの実験

#### 先生講評

さんがおこなった「バイノーラルの二つの実験」では、バイノーラル効果を利用して、頭の中に文字を書くことと、頭の周囲にうるさくつきまとう蚊の飛ぶ音の描写を試みています。鈴木さんに直接お聞きしたところによると、頭の中に文字を書くアイディアがまず最初に頭に浮び、そのアイディアの発展として、蚊の飛ぶ音の描写を思いついたようですが、頭の中と頭の外に音像を描いてみせた二つの実験の着想の素晴らしさに大きな拍手をおくらないではいられません。これもバイノーラル録音ならではの面白いアイディアであり、面白い効果といえましょう。

実験の前に、まず、電車の通過音を迫力のあるバイノーラル効果で聴かせている構成と組み立てのうまさも光っています。それも、ただの通過音だけでなく、踏切の警鐘を利用して臨場感を盛り立てている設計のうまさにも感じさせられました。録音テクニックの基本をしっかり身につけている人のように思えるすぐれた録音ですが、電車の通過中とそのあとで、電車の風圧により右側のマイクが吹かれ、ホソボソというノイズが入っているのはいただけませんね。

さて、最初の、頭の中に文字を書く実験で、DAMという三文字を使ったところは気がかいていますし、面白い効果が出ています。おそらく、あなた自身による説明がなければ、どんな文字を書いているのかはおろか、何をしているのかさえわからないで

しょうが、人間の心理は不思議なもので、DAMという文字だという予備知識を与えられて聴けば、不思議にそう聴こえるものです。そんな人間の心理をうまくついた作品です。さんは「ダミーヘッドマイクの性能が余りよくないので、うまく効果が出ていなかったようです」と作品の中で述べていますが、反対に、自信をもって「面白い効果が出ていたでしょう」とおっしゃるべきでした。

さんのお話しによると、二つの実験の音源にイヤホンを使ったそうですが、音源がほぼ点状になるイヤホンを使った効果が、頭の周囲を飛ぶ蚊の音で生かされています。発信音の周波数は聞きもらしましたが、本物の蚊の音をほうふつさせる周波数が使われており、思わずびしゃりやりたくなるほどリアルに描写しています。

ただし、録音中の雑音が多すぎるようですし、テープの編集をもっと丁寧におこなうよう心掛けて下さい。

録音／編集：51年12月19日

録音場所：自宅／武蔵小金井駅踏切

制作／出演：本人のみ

録音機：ティアック PC10

(テープ ソニー C30F)

ダミーヘッドマイク：自作(MU-1使用)

〈制作のねらい〉アイディアで勝負。音源の移動。

# BINAURAL RECORDING CONTEST

講師＝三井啓先生

- |     |       |                                 |
|-----|-------|---------------------------------|
| A-1 | 努力賞   | 電話2つでバイノーラル                     |
| 2   | 優秀賞   | あるバイノーラルの2つの実験                  |
| 3   | 努力賞   | 秩父の夜祭風景                         |
| 4   | アイデア賞 | たった一人の五重奏                       |
| 5   | 努力賞   | 下赤塚諏訪神社行事「田遊び」                  |
| 6   | 努力賞   | 昭和51年と52年にまたがる300秒              |
| 7   | アイデア賞 | 悪夢                              |
| B-1 | 最優秀賞  | ジュンちゃんのディスク・ジョッキー「飛行機なんてデンドンドン」 |
| 2   | アイデア賞 | ほのぼの床屋                          |
| 3   | 努力賞   | 池上本門寺御会式                        |
| 4   | 努力賞   | F-1 爆走                          |
| 5   | 努力賞   | マッドマウス                          |
| 6   | 努力賞   | 常磐炭坑節の主題によるバイノーラルの音楽            |
| 7   | 努力賞   | 多重録音作品「竹田の子守唄」                  |
| 8   | アイデア賞 | イメージサウンド「白と黒の情景」                |
| 9   | アイデア賞 | 夜の訪問者                           |

## Side A

### 努力賞

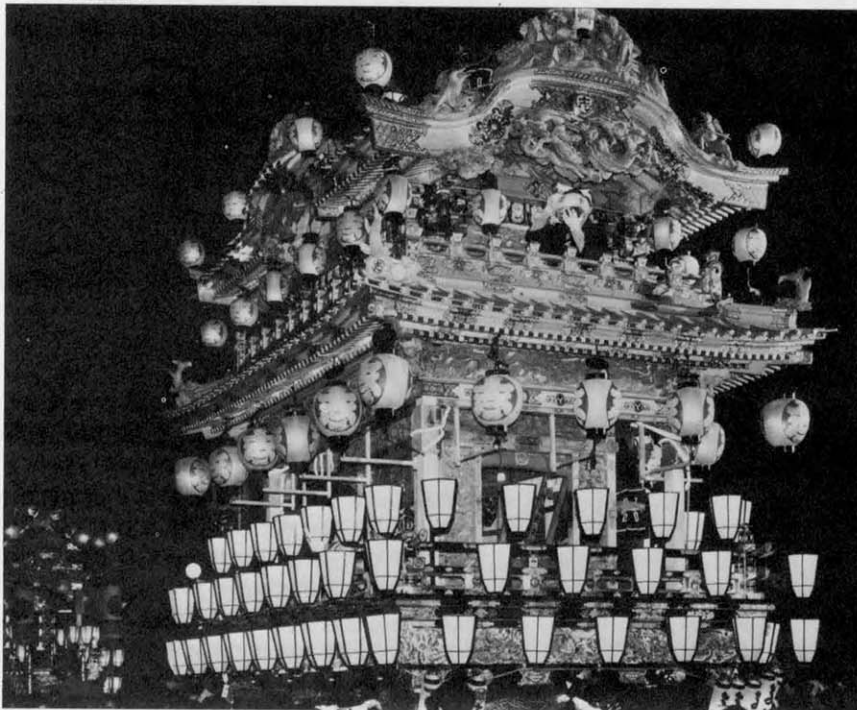
#### ■電話2つでバイノーラル

あなた自身の声を定速録音定速再生と定速録音倍速再生で使いわけ、二つの電話を利用して一人二役でバイノーラル録音の効果をわかりやすく説明しようという努力は高く評価できます。バイノーラル録音の実際として聴かせている、夜明けの音、東急東横線ガード近くでの電車の通過音、自動車の走行音、小鳥の鳴き声などもなまなましく録られていて申し分ありません。欲をいえば、バイノーラル録音の実際例が交通機関を対象にした素材に偏っていることが惜しまれます。もう少しヴァリエティに富んでいたならもっと素晴らしい作品になっていたでしょう。

電話による二人の会話の間が長すぎるところが数ヶ所あり、編集個所でブツンというノイズが気になるところも十数ヶ所ほどありました。また、低いレベルで音がまだ残っているところに鉈を入れたために、テープの編集個所で不自然になるところもありました。

録音／編集：2月25日～26日

#### 秩父の夜祭風景



録音場所：東急東横線ガード近くおよび自宅の近所

録音機：アイワ AD-5600

(テープ TDK SA)

ソニー TC6360A

(テープ マクセル UD)

(完成テープ フジ FLC-30)

ダミーヘッドマイク：自作(日本バイノーラル研究会のテキストによる)

<メモ> 前半…片ch会話

後半…電話式によるバイノーラル効果?

(電話のベルはわざとふるえさせてあるので)

### 優秀賞

#### ■あるバイノーラルの2つの実験

(講評はレコードジャケット裏面にあります)

### 努力賞

#### ■秩父の夜祭風景

12月3日におこなわれた有名な秩父夜祭の風景を、迫力あるバイノーラル効果で聴かせているところが高く評価できる作品です。前半で、

秩父警察署の警官による交通規制の声で目の前に展開している情景を説明させておき、後半で、祭り太鼓に焦点を合わせて秩父夜祭の雰囲気を感じさせている構成のうまさもみごとです。

録音テクニックや構成力が素晴らしいだけに、あえて一つだけ注文をつけると、前半と後半のバランスに対する配慮が欲しかったように思います。つまり、前半の警官による交通規制の声の迫力や、屋台の接近にしたがって盛り上がる活気に対して、後半の焦点になっている太鼓の音が弱すぎることで、マイクの移動に制約があったとは思いますが、太鼓に徐々に接近して太鼓の音の迫力でこの作品の最後を飾ることができたなら、もっと説得力のある作品になっていたでしょう。

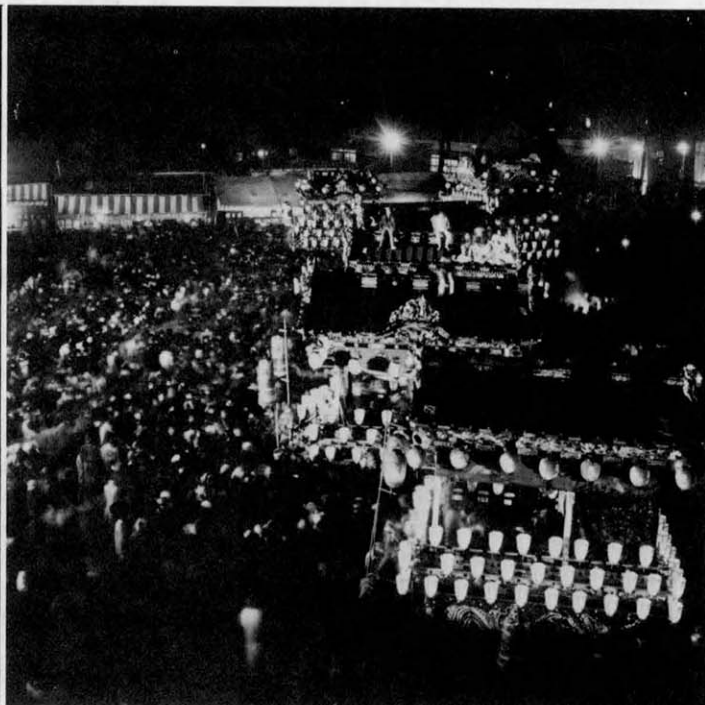
それはともかく、アマチュアの手本となるバイノーラル録音の一つに挙げられる作品です。

録音：51年12月3日

録音場所：秩父市内「秩父夜祭」現場にて

録音機：ソニー TC3000SD

(テープ TDK SAC45)



ダミーヘッドマイク：ナボレックス DH-1

<メモ> 苦勞したところ…ダミーヘッドマイクにタッチノイズ防止のため、帽子をかぶせて手持ち録音。

#### 秩父夜祭

埼玉県秩父市柞の森鎮座、総社秩父神社の12月3日の例大祭が秩父夜祭である。六台の屋台と笠鉾が夜を徹して街を練り歩くが、三百年の歴史を誇るもので地方名匠の所産である。またこの夜祭は一名お蚤まつりとも呼ばれている。  
(写真及び資料提供 西武鉄道株式会社観光部 宣伝課)

### アイデア賞

#### ■たった一人の五重奏

今回の応募作品の中に、楽器の多重録音が多かったことが目立った傾向の一つでした。それらの中から、すぐれた作品として後述べる

「常磐炭坑節の主題によるバイノーラルの音楽」や、「竹田の子守唄」の二作品をこのレコードに収録することにしましたが、数多い多重録音作品の中で際立っていたのは、この「たった一人の五重奏」でした。

作品のタイトルは「たった一人の五重奏」となっていますが、お聴きになればわかるように、一人九役という前代未聞の活躍ぶりです。つまり、オルガン、ギター、ハーモニカ、ウクレレ、リズム楽器の五つの楽器の演奏の他に、リズムを除く四つの楽器の奏者の声も一人で演じており、それらが手際よくまとめ上げられているのには驚ろかずにいられません。

作品を構成していく筋書きのうまさ、計算の緻密さや、多重録音テクニックのしっかりしているところが、この作品を成功に導いた根底になっていることはもちろんですが、それにしても、奏者の言葉のやりとり間の素晴らしさ、手際よさはみごとなものです。各人のセリフにぎこちないところがみられず、自然に流れていく様子は、プロも顔負けといったところ。奏者の言葉のやりとりで、楽器を紹介しながら楽器の位置を明確にしていくアイデアや、演奏の終了で作品を閉じないであとを面白く処理しているところも心憎いほどです。

多重録音の一つの模範的な作品として、この「たった一人の五重奏」をアイデア賞に選出しましたが、優秀賞にもう一作品を入れることができたなら、この作品が選ばれていたこととし

よう。楽器演奏の多重録音も、このように構成していくと面白くなるという見本を示した作品です。

録音／編集：51年1月9日

録音場所：自宅

録音機：ティアック A3340

(テープ スコッチ177)

編集機：ソニー MX650／ソニー TC5550

(テープ マクセル UD35-90B)

ダミーヘッドマイク：自作 (ECM150 使用)

〈メモ〉

Step 1 オルガンと電子リズムを A-3340 S の1&3 trackに録音

Step 2 1&3 trackを再生しながらギターを Mixし、2&4 trackに録音

Step 3 2&4 track (オルガン、電子リズム、ギター)を Rec HeadでMonitorしながらハーモニカを1&3 trackに録音

Step 4 1～4 trackを再生 (MX650に加え)ウクレレを Mixし TC-5550-2 に録音……完成!!

以上録音、Mixing、編曲、演奏のすべてを一人で行なった。

努力賞

■下赤塚諏訪神社行事「田遊び」

板橋区下赤塚に古くから伝わる祭りで、旧暦の正月、2月13日に催され、国の重要無形文化財に指定されています。年の初めにあたって、前年の豊作を感謝し、また新しい年の五穀豊饒を祈る行事で、「もがり」という神社前のしきりの中で、太鼓を中央に立てて田にみため、これをかこんで種まき、田植え、鳥追い、刈取りなどの米作りの過程が演じられる遊びです。

田中さんの作品は、下赤塚駅に向う東武東上線の電車車内音、諏訪神社境内の歩行者、御輿の行列、境内に入った行列、「もがり」の中の田遊びの行事という構成でこの祭りの情景を描写しており、それぞれの場面が目の前に浮んでくる臨場感の豊かな作品になっています。ただし、マイナス点を一つ挙げるなら、最後が余りにも唐突に終わっていることです。ゆっくりとフェード・アウトし、聴き手の心に余韻を残しつつ作品を閉じる配慮が欲しかったと思います。が、どうでしょうか。

録音：52年2月13日

編集：52年2月20日

録音場所：下赤塚諏訪神社

録音機：ビクター KD3

(テープ ビクター C60LN)

編集機：ティアック A2300-2T

(スコッチ 212-R90C)

ダミーヘッドマイク：ビクター HM200

ミキサー：自作

〈メモ〉録音内容－電車車内音～境内歩行者の音～御輿の行列～境内に入った行列～「もがり」の中の歌

苦労したところ－太鼓の音の歪み、トーンコントロール、BASS UP、HM200 のため頭が動かさなかった。

田遊び

板橋区の徳丸、赤塚地方に古くから伝わる祭りであり、平安時代の田楽舞が変化したものといわれている。五穀豊饒を願い、毎年2月13日に、下赤塚諏訪神社で開催される祭りで、昭和28年には都の重要無形文化財に、昭和51年6月には国の重要無形民族文化財に指定されている。※「田遊び」保存会 03-939-2069

努力賞

■昭和51年と52年にまたがる300秒

募集期間が年末年始と重なったために、年末年始の情景を題材にした作品が多数ありました。その中でも、作品は最もユニークなとらえ方をしており、除夜の鐘を自分でつきながらバイノーラル録音した努力と、世田谷区豪徳寺の除夜の鐘を身近かに聴く面白さが光っています。

年があらたまる瞬間は、身のしまる思いがするほど感動的なものです。作品の中で、近くにいる子供が、「あと1分50秒」といっているのが効果的ですが、51年から52年に年があらたまる瞬間の感動を盛り上げるための何んらかの演出が加わっていたなら、あなたの努力はもっと高く評価されたでしょう。適正録音レベルのセットが難しい鐘の音をカセット・デンスケで録音していますが、至近距離の鐘の音をなかなか上手にとらえています。

録音：51年12月31日～52年1月1日

録音場所：世田谷区豪徳寺

録音機：ソニー TC3000SD

(テープ ソニー C46HF)

ダミーヘッドマイク：ビクター HM200

アイディア賞

■悪夢

グロテスクな内容ですが、バイノーラル効果の豊かな効果音をうまく使っており、ドラマの構成力や面白さもなかなかみごとです。なにより、セリフの一つ一つにほとぼしる熱っぽい演技に感銘を受けました。今回のコンテストに応募された人々の年令を調べてみますと、最低年令が13才で、ティーンエージャーが非常に多く、その面でも大きな感銘を受けましたが、飯沼さんもまだティーンエージャーの19才、将来の楽しみな人の一人です。これから素晴らしい作品を聴かせてくれることを期待しています。ただし、次の機会にはもっときれいな内容の作品を聴かせて下さいね。

ところで、応募作品にみられる傾向として、録音レベルの低すぎるものが多かった、とどこ

かで述べましたが、作品も、録音レベルが低すぎるものの一つでした。別に述べたように、このレコードではマスター・テープを制作する際に、録音レベルが適正レベルに補正されていますので、レコードではよくわかりませんが、あなたが提出されたテープでは、適正レベルで録音された作品の適正再生レベルで聴くと、セリフの一部がよく聴きとれないところがありました。神様と閻魔様の協議の結果言い渡される判決の「地獄で～す」という声のレベルに録音レベルを合わせたために、全体の録音レベルが低くなってしまっているわけですが、判決の声のレベルを少し下げ、全体の録音レベルをもっと上げるようにした方がよかったです。録音レベルが低かったために、結果的にテープ・ヒスやハムらしいノイズが多くなってしまっています。バイノーラル録音はヘッドホンで聴くため、ノイズが耳につきやすいので、録音レベルの調整や、ハムなどの雑音の混入にはとくに注意しなければなりません。

飯沼 実 19才 大学生

渋谷区代々木4の48の8

録音／編集：51年12月26日

録音場所：友人宅

制作／出演：

録音機：パイオニア CT-7

編集機：テクニクス RS650U

(テープ フジFLC30)

ダミーヘッドマイク：自作(ダイナミック型使用)

〈制作のねらい〉

アイデアという事に着眼してまず不思議な音を録ろうと思い、更にそれらを材料にして、起承転結になる様、物語を組み立てました。最も苦労した点は、SE(効果音)をいかに活かすかという事です。SEはすべて身近にあるものを使って作りました。たとえば、洞窟を吹き抜ける風の音――喉に直接マイクロフォンを付けて、息の音を録る。血の池の音――コップに水を満たし、ストロで息を吹き入れるとボコボコとでる音を録る。血の川――自宅風呂場で水を流しそれを録る。心臓の音――鼓動の高鳴りを捕えるため、外を走って来てヘッドフォンを胸にあてマイクの代わりにしてマイクジャックに入れて録る。

Side B

最優秀賞

■ジュンちゃんのディスク・ジョッキー

「飛行機なんてデンドデン」

(講評はレコードジャケット裏面にあります)

アイディア賞

■ほのぼの床屋

理髪店で髪を刈る音は、バイノーラル録音のデモンストレーション的な素材として使われており、もはや珍しい素材音ではありませんが、その髪を刈る音でバイノーラル効果をじっくりと聴かせ、さらに、ストーリーを發展させているところが、この作品の成功の要因です。

題名になっている「ほのぼの床屋」とは、あなたのお母さんの「にわか床屋」のことでしょうか。題名どおり、そんなほのぼのとした雰囲気ストーリーの中に盛り込まれています。作品の最後で、あなたのお母さんらしい人が、「ちょっと待って、掃除器を持ってくるから……」と言っていますが、筋書きによるものにしろ、また偶然にしろ、この最後の一言がストーリー

をぐんとしめ、また面白くしています。刈り取られ、散髪されている人の体についた髪の毛を電気掃除器でとろうというのでしょうか、作品を聴き終わったあとでもなおそんなことを想像させ、おかしさがこみ上げてくる作品です。

まだ16才だそうですが、録音テクニックの基本がしっかりした人ですね。髪を刈る音をリアルに録っているのは感心しました。ただ、散髪されている人が「鋏が切れないから痛い」と訴えたあとに、床屋さん、散髪されている本人と、そばにいる男性の笑い声が入っていたり、そのあとで、そばにいる男性が「じゃ、そこまで」と言っていますが、これらをカットしておいたなら、最後の一言がもっと生きてきたでしょうし、もっと素晴らしい作品になっていたでしょう。

録音：51年12月15日

録音場所：自宅

録音機：ソニー TC3000SD

(テープ マクセルUDXLII)

編集機：ティアック A6100

(テープ マクセルUD)

ダミーヘッドマイク：ECM16 を自分の耳に付けて録音

努力賞

■池上本門寺御会式

録音の対象としては極くありふれたお祭り風景を題材にしていますが、その手馴れたテクニックは、さんが録音の経験をかなり積んだ人であることを感じさせます。笛、太鼓、鉦などの多彩な音色をもつ音源に焦点を合わせて、その移動感をバイノーラル効果でリアルに聴かせているところが入選のポイントになりました。フェード・イン、フェード・アウトもタイミングよくおこなわれています。

内容を説明するナレーションをミキシングしていますが、たった9秒間のナレーションでも、この作品のように要点を尽したナレーションが挿入されていると、受け取る側は素材音に一步近づけることができ、聴き手の想像の世界をぐんと広げてくれます。ミキシングの際のナレーションと背景音との音量のバランスも適切です。

録音：51年10月21日

録音場所：池上本門寺

録音機：UHER 4200 STEREO REPORT IC

(テープ BASF DP26LH)

編集機：TRK339 (テープ AGFA PER525)

ダミーヘッドマイク：自作(ソニー ECM170使用)

努力賞

■F-1爆走

昨年10月21日から24日にかけて、富士スピードウェイでおこなわれた「F-1世界選手権レース・イン・ジャパン」の決勝前日のレースを録音していますが、爆走するF-1の移動感が、力強く、しかも自然に表現されています。富士スピードウェイの場内放送は場所によって聴きとりにくいところがありますが、少々レベルが高すぎるとはいえ、レースの模様を伝える場内放送をはっきり収録できる場所を選んだ努力のあとがうかがえます。

今後研究すべき点の一つ挙げておきましょう。

\*入賞者の氏名・住所・顔写真などの個人情報、削除させて頂きました。2015.4 DAMPC

直線コースでの収録音と、30Rのヘアピン・カーブでの収録音が唐突と移り変ることです。二つの場所での収録音をフェード・イン、フェード・アウトのテクニックを使って接ぐか、テープ・デッキやミキサーなどの器材を十分に用意できるなら、フェード・イン、フェード・アウトしながら両者を重ね録音するといった手法を使ってみてはいかがでしょうか。※

録音：51年10月23日  
録音場所：富士スピードウェイ「F-1 レース決勝」  
録音機：ヤマハ TC800GL  
(テープ TDK DC30)  
ダミーヘッドマイク：ビクター HM200

#### 努力賞

##### ■ マッドマウス

豊島園にある二人乗りジェット・コースターの附近で録音した作品で、子供たちのキャーキャーという悲鳴が、遊園地の楽しい雰囲気を与えています。ジェット・コースターが左右に移動するだけでなく、上下に波をうって移動する様子が目の前に浮んでくるのも、バイノーラル特有の効果といえましょう。

この作品は、ジェット・コースターの近くで録音した二つの場面で構成されていますが、何んの予備知識もなく聴いていると、二つの場面の間にどんな違いがあるのかよくわかりませんし、立派な録音器材をお使いになっているにもかかわらず、再生音の周波数特性がアンバランスで、高音域の強調された再生音になってしまっている理由がよくわかりません。もしかしたら、録音の際にカセット・レコーダーのテープセレクターを正しいポジションにしてなかったのではないのでしょうか。正しく操作したつもりでも、いざ録音となるとその場の雰囲気にのまれてしまって間違いやすいものですから、二度、三度と確認してみることが必要です。基本をしっかりマスターし、次回は優秀賞、最優秀賞をねらってください。

録音／編集：52年2月6日  
録音場所：豊島園  
出演：本人と友人とお客様  
録音機：ビクター KD4

(テープ TDK SAC46)  
ダミーヘッドマイク：ビクター HM200  
〈制作のねらい〉遊園地のいろいろな音を、BGMと共に表現したいと思ったが、仲々思う様な所がなく、結局ジェットコースターを中心にしたバイノーラル録音ということになってしまった。※

#### 努力賞

##### ■ 常磐炭坑節の主題によるバイノーラルの音楽

多重録音の技術を駆使して一人五役の楽器演奏をしている上に、ナレーターまでご自分でみごとに演じているのですから、努力賞をさし上げないわけにはいきません。五種の楽器を器用に演奏しているのも立派ですし、多重録音を組み立てるテクニックや、バイノーラル効果もみごとにこなすのです。しかも、テレビで馴染の深いあるプロのナレーターを思わせる素晴らしい声に

もうっとりさせられてしまいますし、音楽の聴かせどころとナレーションの出番の配分にもアマチュアとは思えないほどの巧みさがみられます。何も申し上げるすきもないほど、きっちりまとめ上げられた作品といえましょう。素晴らしいテクニックと声を十二分に駆使して、また、みごとな作品を聴かせて下さることを楽しみにしております。

録音：52年2月26日  
録音場所：自宅  
出演：ナレーション  
ピアノ／エレクトーン／三味線／笛／パーカッション  
以上すべて本人による多重録音

録音機：ティアック A7030  
(テープ フジ FM150)  
編集機：ティアック A6300  
(テープ フジ FG150→住友3MLHC60)  
ダミーヘッドマイク：ナポレックス DH-1

#### 努力賞

##### ■ 多重録音作品「竹田の子守唄」

多重録音は、フォーク・ギターを4回、12弦ギターを1回演奏して五重奏を構成しています。この作品は、数が多かった多重録音の応募作品の中で、最もうまくまとめ上げられ、バイノーラル効果のすぐれた作品の一つでした。前述したように、このレコードをカットするマスター・テープを制作する段階で、東芝EMI音響技術部によってそれぞれの作品の録音レベルが適正レベルに補正されていますが、実は、このレコードに収録された入賞作品といえども、録音レベルはまちまちで、概して録音レベルの低すぎるものが多かったようです。その中で、応募テープの仕上げは、群を抜いて立派なもので、多重録音の素晴らしいテクニックと合わせて、録音の基本をしっかりマスターした人だということを感じました。今後、あなたの高度なテクニックをもっと発展させ、作品の中にユーモラスな遊びの要素を盛り込むことを考えてみてはいかがでしょうか。アイデア賞に入賞した、「たった一人の五重奏」が参考になる作品です。

録音／編集：52年2月5日  
録音場所：自宅  
出演：本人のみによる多重録音  
録音機：ソニー TC6000  
(テープ スコッチ206)  
編集機：ティアック A1300  
(テープ スコッチ206)  
ダミーヘッドマイク：ナポレックスDH-1  
ミキサー：自作  
〈制作のねらい〉ダミーヘッドが面白くて、多重録音にプレゼンスを要求……。

#### アイデア賞

##### ■ イメージサウンド「白と黒の情景」

作者は武蔵工業大学の電子通信科に在学中の学生ですが、自作のミキシング・コンソールをはじめ多種にわたる高度な器材に恵まれ、さすがに巧みなテクニックが駆使されており、また

豊富な経験から得た作品の構成力も立派です。フォーク・ギター、自作のシンセサイザー、江の島で録音した波の音のほかに、ビニール袋をたたきつづいた音を1/2速度の低速で再生して爆発音に似た効果を出すなど、多種多様な音を素材にしており、五回のダビングによる多重録音で創作されています。3ヘッドのテープ・デッキを利用したディレー・エコー、4チャンネル・デコーダーのリア・チャンネル出力を利用した位相処理、パンポットの操作で音像を頭の中でくるくるまわす効果など、一般のアマチュアでも入手できる器材を使用して特殊な効果を出しているところが、大いに参考になる作品です。

この作品は、もちろんバイノーラルで録音されたものですが、よく聴くと、通常のステレオ音場に近いものが含まれていることに気がつくはずで、作者の説明によりますと、バイノーラル録音のメリットを生かした音場を構成するために、あえて普通のステレオ音場に近いものを入れたそうですが、バイノーラル効果のメリットを一層強調する手法として、通常のステレオ音場を一部に使用するのも効果的です。また、楽器が歪んでいるところがありますが、演奏効果上、故意に歪ませたもので、レベル・オーバーによるものではありません。

ベテランですから何んらかの意図があつてのこととは考えられますが、ヘッドホンの再生周波数帯域の下限に近い低い周波数でテープ・デッキのメーターの針がスケール・アウトするのは考えものです。このレコードでは補正されているはずで、

この作品は、コンテストに発表したイメージサウンドの第五作目だそうです、ますますの研鑽を念じております。

録音／編集：51年12月20日～23日  
録音場所：自宅  
録音機：ソニー TC7650  
(テープ ソニー SLH275BL)  
編集機：ティアック A2300  
(テープ マクセルUDXL)  
ダミーヘッドマイク：自作 (ECM23使用)  
〈制作のねらい〉身近な素材によるイメージサウンド、バイノーラル音場の効果  
〈メモ〉苦勞した点＝SN比をアップすること、ダビングの接点およびダビングの繰り返し、ダミーヘッドなどの選択について、自宅での録音のために外部雑音に悩まされた。



#### ● 作者による解説

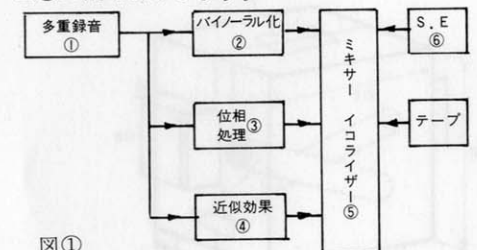
##### 録音にあたって

現在一般のアマチュアが行えるバイノーラル録音は、単一のバイノーラル用ダミーヘッドを使ったものが大部分です。ヘッドホーンを使用した再生において創られる音場効果を積極的に利用しようと考えたのが今回の録音です。

従来からの考え方を広げ、バイノーラルを楽しもうと考えました。また録音には、アマチュアが入手できる一般的な器材を利用しています。

##### 録音方法の概略

図①に概略を示します。

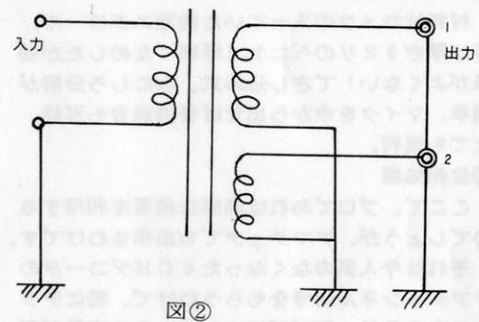


図①

以下簡単に録音のテクニックについてふれます。  
①多重録音

複数デッキのダビングによる一般の録音です(ここでは3台)、また、3ヘッドデッキによるディレーエコー、およびグラフィックイコライザーによるイコライジングなどを行います。ここでは、リズム、ギター、SYN1、SYN2、SYN3、の5回のダビングを行うために、SNおよび高域劣化を考えて、あらかじめイコライジングを行うことも必要です。また③の位相処理の効果を上げるために、逆相信号を録音する必要があります。これは簡単な方法があり、紹介します。

小型トランスを用いて逆相信号を得ています。安価で、簡単な工作で出来ます。出力、1・2の信号をミックスすると打ち消し合い消えてしまいますが、ミックス割合で特殊な効果が得られます。



図②

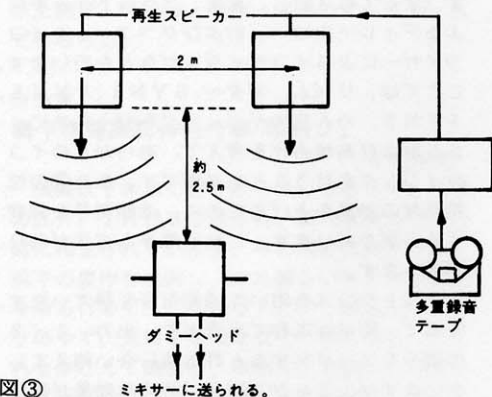
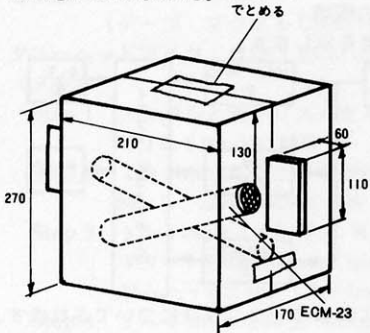
左・自作のミキサー

## ②バイノーラル化

多重録音→バイノーラル化により、今までのバイノーラル録音では出来なかった多くのソースをバランス良くミックスすることが出来るようになったわけです。

録音テープを再生し、ダミーヘッドでひろうわけですが、スピーカの配置やダミーヘッドの位置で効果が異なります。しかし何度くりかえし行えるため、納得がいくまで出来ます。

使用したダミーヘッドおよびバイノーラル化を図③に示しました。



図③

### 〔ダミーヘッド〕

材料はカメラの入っていた発泡スチロール。耳は厚さ3ミリのベニヤ(厚紙で代えたが効果がよくない)でさし込み式。なにしろ分解が簡単、マイクを中から出せば普通録音も可能。とても便利。

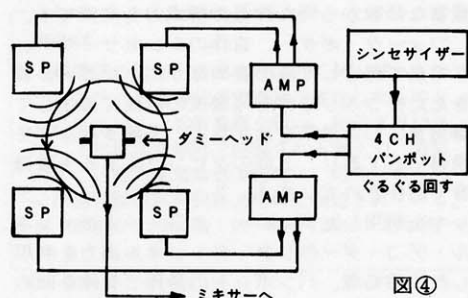
## ③位相処理

ここで、プロであれば高価な装置を利用するのですが、アマチュアでも出来るわけです。

それは今人気のなくなった4CHデコーダのリアチャンネル信号をもらうわけで、特にテクニクスのSH-3400ではマトリクス定数が選べることや、90°、180°の信号が得られるためにおもしろい効果が得られるわけで、ここで②で得られた信号と適度にミックスすることで広がった音像や極端にせばまったものが自由につくれるわけです。また、今回は発表しませんでした、4CHのデコーダの2CH→4CH効果を利用して、2CH→バイノーラル化およびその逆を行うことがたしかめられました(ただし効果はソースによってダメな場合もあり、調整はむずかしい)。

## ④近似効果

これはまさにダミーヘッドが4CHステレオを聞くわけです。今回では、シンセサイザーのサイレン風の音(中間部)がそれで4CHパンポットを利用しました。頭の中でくるくるまわる効果が得られているはず。この信号も、ミキサーに送られます。



図④

## ⑤ミキサー・イコライジング

すでに述べたものをミックスするわけで位相の関係でうち消し合い、バランスがくずれますが、そこがおもしろみで、そこをうんぬんするのはアマチュア的な楽しみは見えてきません、大変ふしぎな音場も出来ます。またパンポットを利用し、右←左に音場を交換するのも素晴らしい効果があります。

## ⑥SE

SEとしては波の音、爆発音を使用しました。

### 〈録音に使用した機材〉

種別	型番	備考
カセットデッキ	ナカミチDT-550	マスター機、ダビング用
オープンデッキ	ティアックA-2300B	ディレー・エコー用、SE用
オープンデッキ	ソニーTC-7650	ダビング用
マイクロホン	ソニーECM-23	2本
ダミーヘッド	自作	別図参照
ミキサー	自作	入力12チャンネル、出力2チャンネル
	(設計・製作)	エコー2チャンネル、グループ3チャンネル
	(全くのオリジナル)	イコライザー、発振器内蔵
グラフィック・イコライザー	ビクターSE A50	
4CHデコーダー	テクニクスSH3400	
モニター用	ソニー	
ヘッドホン	ヤマハHP-1	
	パイオニアSE-50	
再生用プリ	自作DCプリ	差動2段PP出力、NF、EQ
再生用メイン	インテグラ931(低音用)	
再生用メイン	自作管球パワー(高音用)	テレフンケン EL 34シングル
再生用プリメイン	K A-6000(トリオ)	
再生用スピーカー	山水-SP-2002	
	{ JBL-LE-85+HL91	
	{ アルティク-416-8B	
	{ キャビネットマルチダクト	(自作400l)
使用テープ	SLH-275BL	2本
	SLH-プロ	1本
	スコッチ-150	1本
	スコッチ-LD-C60	1本
	マクセル-UD-C46	1本
ヘッドホン	自作DCメイン	
アンプ		

### 〈使用楽器〉

フォーク・ギター	KASUGA G-200
シンセサイザー	自作(設計・製作、全くのオリジナル) VCO3、VCA1、AR、サステイン、LFO、インテグレータ、KET-3 オクターブ

### 〈録音日時〉

52年1月6,7日	イコライジング・ミキシング
	最終録音
50年10月14日	波の音(江の島)
51年1月	爆発のSE(自宅)

いずれも普通のステレオ信号でミックスしていますが、かえてバイノーラル信号との前後感や定位感のちがいが良かったようです。

波の音は以前に江の島で録音したものです。爆発の音はビニールぶくろをたたきつぶした音を1/2速にしたもの、くずれるような音は、セロハンをまるめる音をONでとり半速にしたものです。

### 〔内容について〕

これは私が作っているイメージサウンドで、コンテストなどに発表しているものとしては第5作目です。

本当はもっと現代音楽的なものですが、今回はメロディアスに作ってみました。個人個人のイメージが大切ですので説明の必要はありませんが、構成を述べれば、

「音」と光の「陰影」とを対照しているつもりです。また人間の中にねざす「やさしさ」と「みにくさ」そしてそれがけって2面的なものではなく同一のものではないか……というところですが……。

## アイデア賞

### ■夜の訪問者

わたくしたちの日常生活の中に存在する音を素材にしてドラマをうまく構成した作品です。タイトルもなかなか洒落ていますし、タイトルにふさわしい幻想的な世界がみごとに描かれています。あなたがおっしゃるように「目をつむって」聴くと、バイノーラル録音ならではの臨場感がリアルに再現され、素晴らしいテクニックの持ち主であることを感じさせられます。

しかし、「目をつむって」よく聴くと、細かなところに気が配ればもっと素晴らしい作品になっていたであろうと思われる点がいくつか挙げられます。まず、その一つは、冒頭のあなたのナレーションから目覚めの音に入る接ぎ目で、前のテープの音が完全に絞り切れていないところに録音していることです。プスッとノイズのように聴えるのはそのためで、フェード・アウトで録音ボリュームが完全に絞り切れ、無信号録音状態になったかどうかを十分に確認してからテープに録音を入れるようにしなければいけません。

ナレーションに使用したマイクからボンボンというノイズが入っていることにも気付かれるでしょう。マイクが口元に近すぎるために、息でマイクが吹かれているからです。マイクに風防をつけるか、風防がない場合は、口元からマイクをもっと離して設置するようにしなければなりません。ナレーションのマイクでもう一つ注意しなければならないのは、作品の最後で背景音がフェード・アウトで完全に絞り切られているにもかかわらず、そのあとでもマイクだけが生きていてコソコソというノイズを拾っていることです。どんな器材をご使用になってミキシングしたか不明ですが、マイクからの信号のレベルをコントロールできる機能がついている器材を使っている場合は、使用しない時のマイクのボリュームを絞っておくようにしなければなりません。

細かな点をいくつか挙げましたが、ご参考になれば幸いです。ますます腕を磨いて、次の機会にはもっと素晴らしい作品を聴かせていただけることと確信しています。

録音/編集: 52年1月9日

録音場所: 自宅

出演: 本人と2人の女性

録音機: ティアック A2300S

(テープ ソニー SLH)

編集機: アカイ(型式不明)

(テープ TDK SAC45)

ダミーヘッドマイク: ビクター HM200

〈制作のねらい〉ダミーヘッドを購入した機会

に、あらゆる音を探ってみたいと思って……

足音、時計の音など、支離滅裂な組合せて、

ドラマ風に構成してみた。

### 審査に使用した機器

カセットデッキ: パイオニアCT-9、ティアック A450

オープンデッキ: ソニー TC9000F2、ティアック R760

アンプ: ヤマハ CA2000、ナポレックス HA5

ヘッドホン: ナポレックス CTX-1 MKII

アンプ: ヤマハ CA2000、ナポレックス HA5

ヘッドホン: ナポレックス CTX-1 MKII

このレコード「DOR-0029」に収録されているSIDE Aの1, 2, において、ゴーストが感じられますが、これはBGMをとまわらないナレーションをレコード化する場合に起りやすい現象ですので御了承下さい。